



平成 29 年度兵庫県食育絵手紙コンクール 福良小の辻柚香さんが優秀賞

兵庫県では食育への関心や実践力を高めることを目的に、毎年「食育絵手紙コンクール」を開催しています。今年は「給食の思い出」と「減塩でおいしく食べる工夫」の2つのテーマで作品を募集。県内から 705 作品の応募がありました。

南あわじ市児童館お絵かきクラブの子どもたち 29 人も「給食の思い出」をテーマに 29 作品に応募。福良小学校2年の辻柚香さんが優秀賞に輝きました。

辻さんは「他の人賞者が中学生だけだったので、賞をもらえてうれしい」と笑顔で話してくれました。



01 食育絵手紙コンクールで優秀賞に輝いた辻さん。02 受賞作品。

古代ロマンに思いをはせる

市民講座「国生み神話と淡路島」を開催

伊弉諾神宮の本名孝至宮司による市民講座「国生み神話と淡路島」を 10 月 28 日に市立図書館で開催しました。

講演では淡路という名前は、「阿波への路」ではなく、「天地（あわ）」が語源であるだろうなど、地名や伊弉諾、伊弉冉の名前の由来、古代国家における淡路島の役割など、本名宮司が今まで読んだ古事記や日本書紀などの書物を例にあげ、そこから導き出されたことを話されました。

また講座の最後の質問時間には、多くの挙手があり、参加者の淡路島に対する興味を大変感じ取れました。



01

01 古代の淡路島の役割について話す本名宮司。02 市民講座に参加した大勢の人たち。



02

伝統農法の保存・伝承をめざして

農業遺産シンポジウムを開催

南あわじ地域世界・日本農業遺産推進協議会は 11 月 6 日、吉備国際大学志知キャンパスで「淡路島たまねぎとわたしたちの未来」と題してシンポジウムを開催しました。

南あわじ市とあわじ島農業協同組合、洲本農林水産事務所などで組織する同協議会は、昨年、伝統的な農業手法や文化、風景などの一体的な保護を目的とする「農業遺産」に、市内の多毛作体系を申請しましたが、残念ながら選定されませんでした。

今回のシンポジウムは、次回の審査が行われる来年6月までに機運を高めることを目的に開催。元県農業技術センター所長の大西忠男さんによる基調講演のほか、パネル討論などが行われました。



01

01 淡路島たまねぎについてのパネル討論。会場からも質問が出され、活発な意見交換が行われました。



子育て学習・支援センター「うんどうかい」 ダンスや駆けっこにおおはしゃぎ

子育て学習・支援センターによる恒例の「うんどうかい」が 10 月 28 日、サンライズ淡路の体育館で開催され、未就学の子どもたち 174 人がダンスをしたり、親や祖父母と一緒にゲームに参加したり楽しんでいました。



うんどうかいのプログラムを楽しむ参加者ら。

淡路島サクラマスのグルメ開発第2弾へ市内 18 店舗参画

インスタ映えの新メニュー考案中

春に旬を迎える新名物「淡路島サクラマス」。今年春にデビューした丼・鍋メニューに加えて、新メニュー第2弾の開発に、市内の 18 店舗が取り組み、10 月 25 日に中央公民館でグルメ開発試食会が行われました。

メニューのテーマは、20～30 代の女性をターゲットにした「おしゃれカワイイ」。インスタグラムなど SNS で写真の投稿を楽しむ人が求めている「インスタ映えするメニュー」の開発が期待されています。

試食会には、バーガーやピザ、押し寿司など 24 メニューがテーブルに並び、参加者らが次々と試食。今後、参加者の意見やアンケートを基に改良され、来春、各店舗で新しいメニューが提供されます。



01



02



03



04

01 来春に向けてメニューを考案している市内の飲食店主ら。02～04 試食会で出された開発中の新メニュー。